

■このまちオリジナルの「協働」を探るチームが発足

4月に、市職員で構成する市民参画協働政策研究会（協働ワーキング）を立ち上げました。協働ワーキングでは、市民と行政との協働によるまちづくりを考え、「長岡京市オリジナルの協働の形」を探るために活動していきます。『ワーキングって何をやっているのかわからない…』という声を受けて、今後定期的に市民参画協働ニュース「市民とまちづくりを」を発行し、進行状況をお知らせします。ぜひご一読ください！！

■長岡京市における協働の現状は？

協働によるまちづくりとは、一般的に「市民と行政が、同じ目標に向かってそれぞれの特性を活かし、互いに役割分担をして、いっしょにまちづくりをしていくこと」と言われています。今までは、公共的な分野の多くを行政が主体となって行ってきました。しかし、市民ニーズの多様化、市民活動の活性化、市の財政難などの背景から、これからのまちづくりには、市民のもつ力が必要となってきています。

では実際、長岡京市ではどのように協働が進められているのでしょうか？ どのような協働を進めれば、市民も行政も笑顔になれるのでしょうか？

長岡京市における協働はまだまだ始まったばかりです。これから、このまちに合った協働の形を、市民も職員も一緒になって考えていかなければなりません。

■協働ワーキング発足までの流れ

協働ワーキングの前身は「協働」をテーマに昨年1年間、調査や研究を行った長岡京市行財政改革推進委員会（行革ワーキング）です。昨年の行革ワーキングでは2つの部会「事務事業見直し隊」「地域力調査隊」に分かれ、次のような活動をしました。

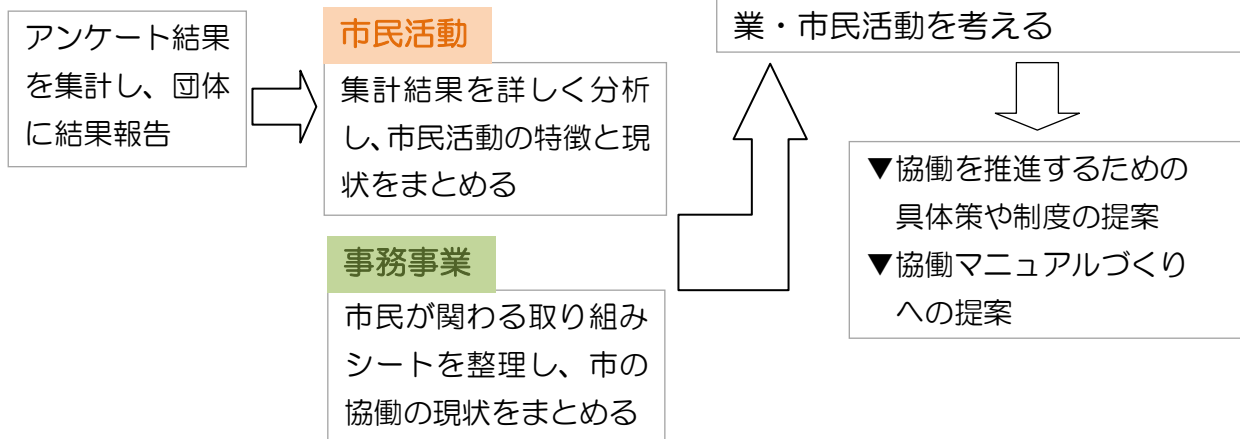
【事務事業見直し隊】…市が行っている事務事業に着目し、協働で進められるものはどれかを探る。具体的には「市民が関わる取り組み調査シート」の作成。

【地域力調査隊】…市民活動団体に着目し、市と協働できる団体の実態を探る。具体的には、市内の市民活動団体を知るためのアンケートを2回実施。第1回アンケートの集計結果からは、市民活動団体の協働に対する意識の高さを知ることができた。

■今年度は、こんなことをしようと思っています

昨年の活動を引き継ぎ、①市民活動団体を知るためのアンケート調査の結果 ②職員のみなさんに4月上旬にお願いした「市民が関わる取り組みシート」の結果、を資料として「長岡京市オリジナルの協働の形」を探っていきます。お忙しい中、市民が関わる取り組みシートにご協力いただき、本当にありがとうございました。

◎協働ワーキング今年度の活動

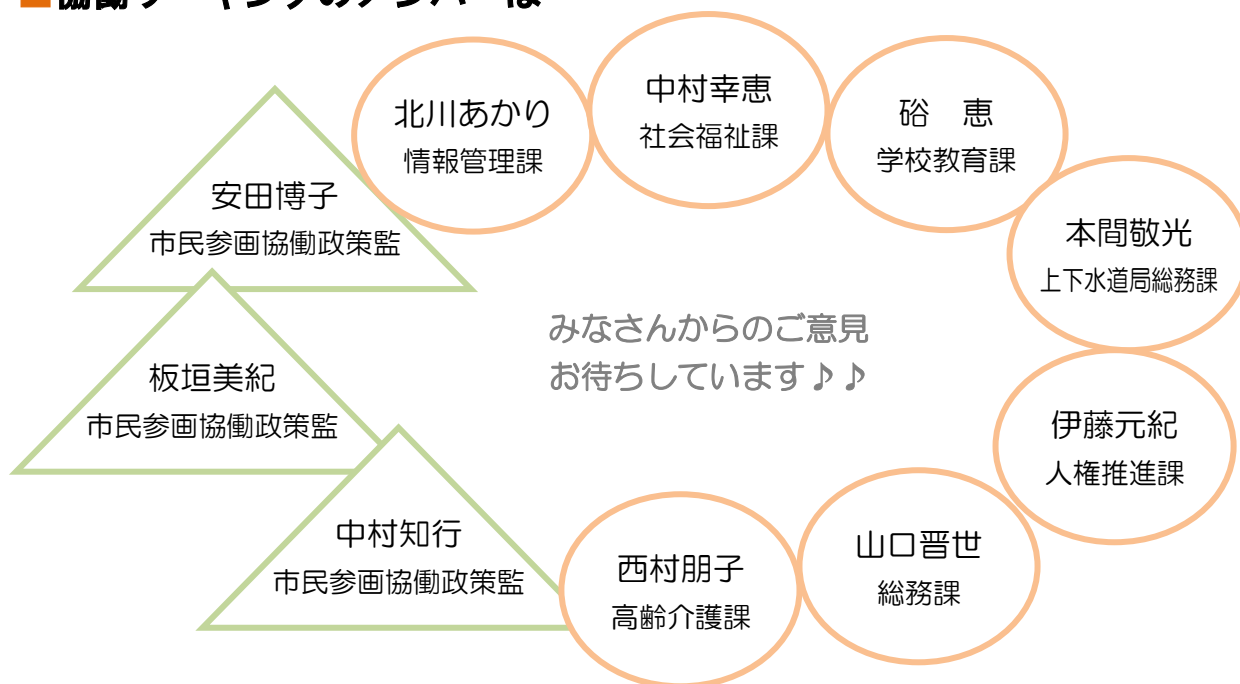


■第1回会議（4月24日）ではこんな話をしました

昨年度の行革ワーキングで市民活動団体に行った「第2回アンケート」の分析方法について、意見を出し合いました。取り急ぎ、協力していただいた市民活動団体に報告する集計結果をまとめること、その後、より深く分析したものを今後の協働の施策を考えるための資料としていくことを確認しました。

アンケートの回答からは「同じ分野で活動している団体と一緒に活動したい」「違う分野で活動している団体と一緒に活動したい」といった意見もあり、団体と市の協働という視点だけではなく、団体同士のつながりを作るためのしくみが必要だということを確認しました。「市民活動団体同士が気軽に交流ができるような、団体の出会いの場となるサイトを創ってはどうか」といった意見も出ました。

■協働ワーキングのメンバーは



* 次回の市民参画協働ニュースは6月に発行予定です。

* 協働に対する疑問・提案・思いなどを、お気軽に下記までお寄せください。

メールアドレス：shiminsankaku@city.nagaokakyo.kyoto.jp